

# 長期ビジョンと中期経営方針

## 長期ビジョン

### 新たな価値を創造し続けるエネルギー・デバイス・カンパニーへ

現在、自動車産業はCASEと呼ばれる大きな変革期を迎えています。また、地球環境保全への意識の高まりから、エネルギー・デバイスの役割はより重要なものになっています。こうした中、自動車や産業向けのリチウムイオン電池需要は先進国を中心に大幅な増加が見込まれます。また、鉛蓄電池需要もグローバルで安定的に推移すると見込まれており、当社が役割を果たす機会は、ますます増えると考えられます。こういった事業環境の変化を機会と捉え、長期ビジョンおよび第五次中期経営計画を策定しました。

#### 現状の課題と将来のありたい姿

	2018年 現状の課題	2022年の姿 中期目標	2030年頃の姿 長期目標
自動車電池事業	成長分野である海外市場で低シェア地域が存在	日本の環境対応車通用技術を活用し、グローバルシェアを拡大	グローバルな最適生産体制を構築
産業電池電源事業	既存事業の国内社会インフラ分野は取り換え需要が中心	IoTの活用と再生可能エネルギー分野に注力	海外での地産地消型ビジネスによる事業拡大
車載用リチウムイオン電池事業	設備投資競争が過剰に発生	HEV用LiB、12V LiBを推進	産業用途の拡大とポストLiBの研究成果を活用

## 中期経営方針

「モノ・コトづくり」をキーワードに新しい価値創造を通じて、鉛電池事業とリチウムイオン電池事業それぞれの持続的成長に繋がる戦略的な企業活動を行います。

#### ポイント

- リチウムイオン電池需要は、自動車・産業用途ともに大幅に増加が見込まれるため、当社の強みを活かせる①HEV、②12V LiB、③産業用途の拡大を推進
- 鉛蓄電池需要は、グローバルで安定的に推移

鉛蓄電池事業  
収益力強化・販売拡大

リチウムイオン電池事業  
成長のための先行投資

CSR課題を事業戦略に取り込んだ  
ビジネスプロセスの確立

事業と社会の  
サステナブルグロース  
(持続可能な成長)を  
目指します

#### 中期重要戦略課題

- ビジネスプロセスにおいて特定したCSRの重要課題に対する取り組みを強化します。
- 鉛電池事業の収益強化と海外事業拡大を通じて、経営基盤の強化を図ります。
- 第六次中期経営計画以降にリチウムイオン電池事業の規模と収益を拡大させるための布石を打ちます。

#### セグメント別事業課題

##### 自動車電池

当事業の主要展開地域である日本・アジア等においては高品質・高付加価値な製品提供、生産性の向上を通じてさらなる収益力強化に取り組むとともに、低シェア地域および未進出地域に対する販売拡大策を展開します。また地球環境配慮や“くるまの電動化”への対応として、12Vリチウムイオン電池の市場開発・展開を推進します。

##### 産業電池電源

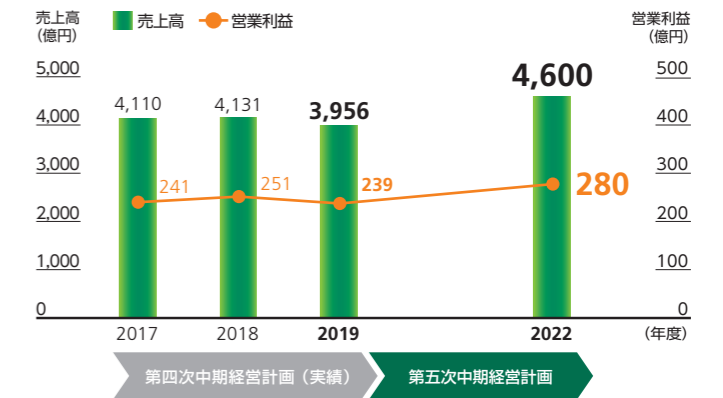
既存市場においては、AIやIoTを活用した“モノ・コトづくり”を通じてさらなる収益力向上、海外展開強化を通じた事業拡大に取り組めます。また、鉛電池からの置き換え需要や再生可能エネルギー分野の新規市場拡大を背景として、産業用途のリチウムイオン電池の開発・販売を一層推進します。

##### 車載用リチウムイオン電池

当社の強みを活かした独自の市場ポジショニングを行い、安定的成長と収益力強化策の展開に取り組めます。特にHEV用途へのビジネス展開強化、12Vリチウムイオン電池の開発・量産は事業成長のドライバーとして位置付け、これを推進します。またEV/PHEV用途で得られるノウハウを応用し、産業用途の拡大を図ります。

#### 中期経営目標 (2022年度 目標)

売上高	4,600 億円以上
営業利益	280 億円以上
ROE(自己資本利益率)	8 %以上
総還元性向	30 %以上
国内鉛建値	30 万円/t
LME	2,100 US\$/t
為替	110 円/US\$



(注) 上記指標はのれん等償却前利益(営業利益・当期純利益)に対するものです。

#### 各セグメントの進捗 (2019年度)

自動車電池事業では、国内でアイドリングストップ(ISS)用電池の補修向け出荷数量が増加。海外ではアセアン地域を中心に高付加価値製品を提案し、タイのSiam GS Batteryで営業利益率が3.6ポイント向上しました。産業電池電源事業ではコトづくりサービスを拡充し、IoTを活用して寿命を迎えた製品の取り換えを提案する「DATAWINDOW-S」を発売しています。

車載用リチウムイオン電池事業では、ハンガリーの12V電池工場が稼働を開始したほか、ブルーエネルギーの第二工場建設を決定。また産業用途で電力貯蔵システム(ESS)市場向け電池の生産を開始しました。その他事業では、潜水艦用リチウムイオン電池の生産および受注が計画通りに進捗しました。

2020年度の取り組みについては「事業別概況」P.41-56をご参照ください。